

議長通信



松山 力弥 議長

げきじんか 激甚化する自然災害に備えて

梅雨や台風のシーズンに向けて、防災体制を確認することが必要な時期がやってきました。近年、熊本地震、西日本豪雨等の大災害を始め、九州各地で自然災害が多数発生しております。いつ須恵町に被害をもたらすかわかりません。昭和48年に発生した大水害は、須恵町始まって以来の短時間の集

中豪雨により、佐谷地区、上須恵地区を中心に多大な被害をもたらしました。あれから50年近く経ち、被害にあわれた方も少なくなり、当時の記憶も薄れつつあります。

「天災は、忘れた頃にやってくる」防災学者寺田寅彦の言葉とされています。起きてしまった災害を忘れることなく日々の備えをしようという意味です。

須恵町においてもこの警句を忘れることなく、自然災害に備えなければなりません。

令和2年度からの繰越事業として、ため池のハザードマップ作成業務委託料が計上され、町内46カ所のため池中、39カ所の県が指定する重点防災ため池についてのハ

ザードマップが完成しました。満水時に貯留水が一気に流れ出た場合を想定し、決壊した場合における浸水範囲・到達時間・最大水深・避難場所等を示した地図です。災害は、まず自分の地域、住居がどういった災害を受ける可能性が高いか知ることが重要です。ぜひ、土砂災害警戒(特別警戒)区域、須恵川の氾濫推定区域を示すハザードマップと併せ確認してください。議会としても、町の防災、減災の取組みを注視していきたいと思

議員研修レポート

防災を考える

令和4年6月21日に「防災を考える」をテーマに研修を行いました。講師は、福岡県安全・安心まちづくりアドバイザーなどをされているWith Laboの貞清潔氏。

「避難」とは避難所に移動することではなく、「難」を「避」けることであり、そのためには、「自助」自分の身は自分で守る事が基本です。「共助」は、地域や近隣で協力し合うこと。「公助」は、国や県、行政、消防機関による救助・救援などを求めることです。

行政がやらなければならないこと、できることを「想像」から「想定」そして「行動」へ

「すぐに」「すばやく」「すえながく」展開していくことが重要です。

今後の課題として、福祉避難所など、身体が不自由な方の対応について考えていかなければならないと思います。

須恵町では、コミュニティの活動も活発に行われていますし、自主防災組織も立ち上げており、防災意識も高く理解がある町です。

近年、幸いにも大きな災害は発生していませんが、有事の際に「自助」「共助」「公助」がうまく機能できることを願わずにはられない研修でした。



すえっ子未来塾



作・田原ウーコ
1979年須恵町生まれ。イラストレーターとして福岡を中心に九州・東京の広告やエディトリアルにて活動中。 <https://polyworks.jp>

人事案件の審議結果

須恵町副町長の選任

稲永 修司氏(上須恵区・67歳)

任期満了に伴い再任

任期 令和4年6月8日～令和8年6月7日



須恵町固定資産評価審査委員会委員の選任

荻 雅晴氏(新原区・68歳)

任期満了に伴い再任

任期 令和4年8月1日～令和7年7月31日



須恵町教育委員会委員の任命

長澤 貢多氏(佐谷区・54歳)

任期満了に伴い再任

任期 令和4年7月1日～令和8年6月30日



本会議傍聴のご案内

本会議は一般に公開されており、簡単な手続きで傍聴することができます。傍聴を希望される人は、本会議当日に役場4階議事事務局の窓口にお越しください。(予約不要)

議会を生でしてみよう!



次の定例議会は
9月2日からの予定です。

ホームページで
会議録を公開
しています。



須恵町のホームページで、本議会の会議録を公開しています。

(平成23年以降の会議録を掲載)

URL : <http://www.town.sue.fukuoka.jp/>

須恵町議会

検索

7月3日の須恵町消防操法大会に向けて訓練に励む消防団を激励に行きました。今年度は2年ぶりの開催となります。大会自体初めて経験する団員も少なくないようですが、分団ごとに厳しい訓練を重ねられています。この操法大会は、いざという時に迅速、確実かつ安全に行動するために行われています。町民の生命と財産を守るため、日々訓練に励む消防団の方々に深く感謝いたします。



須恵町消防団を激励

総務建設産業委員会
令和4年6月20日



追跡 一般質問のその後

過去の一般質問の内容に対し、どのような対応がなされたか、また、どのように町政に反映されているのか追跡しました。

ハザードマップの充実は(令和2年12月議会)

質問 災害に備えるためのハザードマップの見直しや充実についてお尋ねします。

答弁 令和3年度、ため池のハザードマップの整備を行う予定です。また、防災ハザードマップについては、県が今後作成・公表する予定の氾濫推定図を反映させるよう考えています。

その後

進捗状況 県が指定した町内39カ所の防災重点農業用ため池のハザードマップを作成しました。マップには、決壊した場合に想定される浸水想定区域や最大水深などを表示しています。また、防災ハザードマップには、県より公表された氾濫推定図を掲載しています。どちらのマップも今年5月に全戸配布しています。